

2019 年度立命館附属校 教師塾Ⅶ

—利他の心—

附属校教育研究・研修センター

12月3日（火）朱雀キャンパスにおいて、附属校教育研究・研修センター主催の教師塾Ⅶを実施した。

講師として京セラ株式会社 稲盛ライブラリー責任者 橋浦 佳代 氏、アーカイブ課責任者 岩崎 友彦 氏をお迎えし、「人と組織を成長発展に導く稲盛哲学」というテーマでご講演いただいた。

研修は京セラ創業者稲盛氏の経営哲学の本質を学び、私たちの教育現場にどのように還元していけるのか、人生方程式や人の成長・発展に導く「考え方」の習得を目的としたものであった。

参加者は、13人（立命館小学校2人、立命館中高2人、立命館宇治中高1人、立命館慶祥中高2人、立命館守山中高6人）であった。

《研修記録》

研修は①稲盛氏の歩み、②人生方程式にみる「考え方」、③成長に導く「考え方」、最後に④発展に導く「考え方」についての概要説明から始まった。

今から60年前の1958年に8名のみのメンバーにより創業スタートし、テレビのブラウン管の「U字ケルシマ」という部品ただ一つのみの製品を製造販売する、ないないづくしの創業だったことを振り返る。当時から続ける実直な経営方針は、2度のオイルショックやブラックマンデーなど、世界に影響を与えるような数々の経済ショックの影響も、最小限に抑えながら会社の高収益経営を現在まで右肩上がりでも拡大し続ける数少ない企業の一つであることの説明があった。その成長の背景にある本質こそ、『京セラフィロソフィ』そのもので、人間として何が正しいのか？正しいことを正しいままに貫くことを原理原則にした哲学であった。

『京セラフィロソフィ』とは、個人や組織を活性化し、成長に導く普遍的な考え方のことである。

この理念は、あらゆる分野や場面で応用可能で、京セラ・KDDIの成長発展や、JALの再生の礎となっているのは言うまでもなく、私たちの教育現場においても、学校経営や生徒指導などに活用可能な理念であることを動画を織り交ぜながら説明をいただいた。

また一個人の生き方や人生においても人生方程式として評価することができ、「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」で示される。この3つの積算因子のうち、考え方については、数値範囲がマイナスまであり、人生・仕事との結果が180度反転するほどの重要なものである。正しい心と考え方によって行動すること、一日一日をど真剣に生きることが何よりも大切であるということだった。良い心、正しい心をもって生きることに関しては、稲盛氏自身、常にフィロソフィ



を振り返り、反省を繰り返しながら生きていくことを心がけているとのことであった。

発展に導く「考え方」について、「心を高める、経営を伸ばす」には、いかに人格を磨くのか、どのようにして人格を磨くのかについて、一、誰にも負けない努力をする、二、謙虚にして驕らず、三、反省のある毎日を送る、四、生きていることに感謝する、五、善行、利他行を積む、六、感性的な悩みをしないという6つの精進に分けて説明していただいた。人の生き方を植物の生存競争に例えながら、植物はどんな植物であろうと、どの一本たりとも一生懸命手を抜くことなく成長を目標に生き続けていると、とても分かりやすく社員たちに言い聞かせ、稲盛氏自身今もなお手を抜くことは一切なく、常に魂を磨き続けているとのことだった。

質疑応答

Q. アメーバ経営において、異なる性格のリーダーを育成するにはどうしたらいいか？

A. その人物を理解し、その人物のレベルに合わせて、厳しく対応したり叱咤激励したりと、その人物が持つリーダー資質に合わせて引き出すように接することが大切。

Q. 自己肯定感の低い人物が、同僚や学級内には少なからずいる。どのような声掛けが必要か？

A. 一人ひとりにしっかり目を向け、その個人に合わせたアドバイスをして自信を持たせることが重要。

Q. 部活運営に関して、リーダーの育成か、一般部員の育成か、顧問としてどのようにバランスをとりながら指導をしたらいいか？

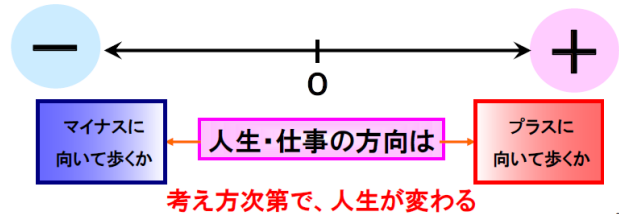
A. どちらも重要。リーダーにも一般部員にもしっかり目を向けてやり、その場その場で声をかけていきそれぞれの成長を促す働きかけを欠かしてはならない。

Q. 考え方が重要で、熱意・やる気・モチベーションについて、特に熱意について稲盛氏はどのように育てたか？

A. 人の本質である、人の役に立ちたいという思いに触れながら、「ありがとう」という感謝の気持ちを稲盛氏自身が会議後などに必ず伝えながら、熱意をはぐくんできた。

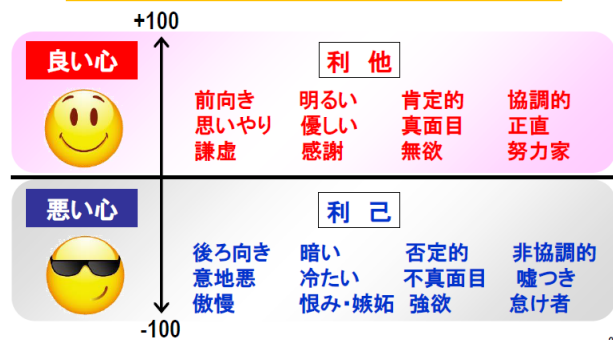
人生・仕事の結果 = 考え方 × 熱意 × 能力

「考え方」とは人生を歩いていく、
また、仕事を進めていく方向



23

考え方: 哲学・心・思想



24

(記録 立命館守山中高 脇田 悟寿)

(編集 附属校教育研究・研修センター 羽田 澄)